

令和4年度 日本精神科医学会学術教育研修会 報告

看護部門

飯島 徳哲 安藤 琢弥

令和4年度の日本精神科医学会学術教育研修会看護部門は、令和4年6月30日（木）に、日本精神科病院協会愛知支部の担当で、Zoom ウェビナーによるオンライン研修にて開催された。「やって良かった精神科看護」をテーマに、全国各地より216名の受講生が参加した。

開講式は、日本精神科病院協会愛知支部長の森隆夫先生が開講のあいさつをされ、本学術研修会名古屋開催がコロナ禍にて2年越しとなり、現在の現場での看護者に求められる看護像などについてお話しされた。

その後、日本精神科病院協会会長の山崎學先生が学会長としてあいさつをされ、引き続き「精神科医療の将来展望」と題しご講演いただいた。最初に、精神保健福祉行政の歩みとして、過去の不幸な事故や事件などの歴史的背景から法改正を重ね、現在の地域移行に向かっていと述べられた。次に、最近のデータに基づく精神保健福祉の動向、高齢化社会に向けての認知症対策、人口減少問題などについて説明されたあと、今後の精神科医療の将来像や課題として、精神障害者の地域移行、高齢精神障害者の増加、減らない自死者数などについて述べられ、特に精神科医療における社会的偏見については是正するために日精協は適切な精神科医療体制の構築を目指すと言われ、会長講演を終えられた。

講演Ⅰでは「脳の構造・機能を踏まえた精神科看護の提供」と題し、一般社団法人仁明会精神衛生研究所副所長の太塚恒子先生がご講演された。精神科看護において症状を捉え側頭葉てんかんが見つかりカンファレンスで見直しをした事例を提



示されながら、前頭葉、側頭葉、後頭葉、大脳辺縁系の諸症状を考慮し、日頃遭遇する精神症状を脳の構造・機能を踏まえてアセスメントする手法について分かりやすく講演された。

講演Ⅱでは「家族ケアの方法～外在化・ナラティブ・家族心理教育～」と題し、名古屋市立大学大学院看護学研究科・看護学部教授の香月富士日先生がご講演された。家族ケアは患者さんの症状を改善するというエビデンスを示し、看護ケアの質を上げるためにエビデンスのある実践の優先度を上げる工夫、看護計画の中にエビデンスのある実践を取り入れていく重要性などをご講演された。

シンポジウムでは「やって良かった精神科看護」と題して、訪問看護ステーション「夢ら咲」代表取締役の木落勇三先生、一般社団法人しん副代表理事の中山ちはる先生、医療法人松崎病院松崎訪問看護ステーション主任の名倉和弘先生、医療法人美衣会衣ヶ原病院副看護部長の笹谷 武先生、そして名古屋市立大学大学院の香月富士日先生を座長として行われた。

最初に木落先生は精神保健福祉の歴史の中で、入院医療は集団管理から個別対応、個別看護に変わっていると話された。現在行っている精神科訪問看護などでは利用者主体のサービス、地域でのよき理解者となることを心掛け、入院時は精神保健福祉士などとの連携が重要であると発表された。

続いて中山先生はイギリスで始まったリカバリーの概念を大切にしていると話された。また、精神科看護の魅力は、人としての関わりを通じて人生の応援団になれること、希望を育み合えることと話された。

名倉先生は作業療法士の立場から目標設定を行い、うまくいかなかった時は新たな課題に取り組み、生活の質の向上を考えると話された。最後に病院、地域、関係機関など、多職種連携を行い、継ぎ目のない支援が必要と発表された。

笹谷先生は入院患者さんは孤独で亡くなっていることが多いが、近親者が精神科での治療をするようになり、自分の不安や葛藤を医師に聞いてもらい看護の仕事に対して前向きに考えられるようになったと、自分自身のエピソードを交えて話され、趣味を楽しむことも看護業務に良い影響を与えていると話された。

最後に座長の香月先生は、利用者が安心できるように少しずつ支援者を増やし、関係を作っていくことなど、人とのつながりの重要性を話され、シンポジウムを終えられた。

講演 III では「医療現場に必要な良好なコミュニケーション力を養う～上司力をアップしよう～」と題して、串間市民病院 病院長の江藤敏治先生が講演された。最初にコミュニケーションの概要、留意点、注意点などを話された。続いて上司として知っておくべきこととして、職場ストレスの観点から部下との関わり方を具体的に示された。最後に目標を達成するための考え方、仲間の大事さ、話し方を分かりやすく説明され、講演を終えられた。

閉講式では、日本精神科医学会から日本精神科病院協会愛知県支部へ感謝状が贈呈された。続いて、学術研修分科会構成員が閉会のあいさつを行い、全日程を終了した。おわりに、森隆夫愛知県支部長をはじめ本研修会企画・運営に当たられた愛知県支部の諸先生方、およびスタッフの皆様、関係者の方々に深く感謝を申し上げるとともに、愛知県支部の今後のご発展をお祈り申し上げたい。

(日本精神科医学会
学術教育推進制度学術研修分科会)